

令和5年3月1日

保護者の皆様

林崎小学校長 平野 貴義

令和4年度学校評価アンケートの結果について

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度の結果について次のとおりご報告いたします。この結果は、本校教育の改善と充実を図るために活用させていただきます。なお、児童・保護者アンケートの集計数値は別紙に掲載しておりますのでご覧ください。

I アンケートの集計結果より



1 児童アンケート

(1) 成果（番号は質問番号を示しています。）

- ①「先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる。」では、95%以上が肯定的な回答をしています。一人一人を大切に、個々のニーズに応じた指導・分かりやすい授業を心がけた成果だと考えます。今後も授業改善を進めて参ります。
- ⑫「先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる」⑬「先生は困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる」では、90%以上が肯定的な回答をしています。日頃からきめ細やかに児童に関わるとともに、PBS（ポジティブな行動支援）の取組が教職員の中に浸透してきた結果だと考えます。引き続き100%をめざしていきます。
- ⑰「先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている」では85%以上が肯定的な回答でした。校内では、大きな声で明るくあいさつできる児童が増えたと感じています。高学年のあいさつ運動等の成果が現れてきたと考えます。
- ⑳『ありがとう』や『ごめんなさい』が素直に言える」では90%近くが肯定的な回答をしています。教師が児童に対しても「ありがとう」「ごめんなさい」を必ず伝えるように心がけたり、児童同士のトラブルの際にも双方の言い分を良く聞き、互いに納得したうえであやまって仲直りするよう指導したりした結果だと考えます。
- ㉑「事故にあわないよう・・・」㉒「避難訓練などは・・・」の割合は昨年度までに引き続き高い割合となっています。今後も保護者や地域の皆様に協力をいただきながら、常時指導を重ねるとともに、フェーズフリーを意識した取組をさらに推進していきたいと考えています。

(2) 課題

- ⑩「自分には、よいところがある」が昨年より約7%下がりました。あらゆる機会に児童の自己有用感を育てていく必要があると考えます。
- ⑱「学校では、ろうかや階段の右側を静かに一列で歩いている」は昨年度比で約9%下がりました。児童の中に廊下は歩くものという認識はあるものの、ルールを十分に守ることができていません。日頃の生活を丁寧に重ねていくよう、取組を続けて参ります。
- ㉓「学級、学校の一員として、考えて行動している」は昨年度より約7%下がりました。めざす児童像に向けて教職員間でさらなる共通理解や指導方法の共有が必要であると考えています。
- ㉔「学校へ行くのが楽しい」では、全く当てはまらないと回答した児童が11%いました。児童の見守りをしっかりと続けるとともに、児童が「学校へ行きたい」と思えるような魅力ある学校をつくれるように、教職員が一丸となって取り組んで参ります。

2 保護者アンケート

(1) 成果

- ⑩「子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している」では94%が肯定的な回答となっています。各ご家庭における学校の教育活動へのご理解・ご協力がうかがえます。
- ⑭「学校行事などに積極的に参加している」の肯定的回答が約84%となり、昨年度比で4%改善しました。授業参観など、コロナ禍で中止となっていた行事が少しずつ再開されたことが要因だと考えます。今後も状況に応じて、工夫しながら取組を進めて参ります。
- ⑮「学校は、保護者や地域の人々が行きやすい学校となっている」では、肯定的回答が約89%となり、昨年度より6%改善しました。前述したような行事の再開に加え、学校運営協議会制度の導入なども要因として考えられます。今後もさらに開かれた学校をめざして参ります。

(2) 課題

- ①「子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる」が昨年度比で約6%下がりました。児童が学校の授業の様子やできるようになったことを嬉々としてご家庭で話すことができるよう、授業改善に取り組んで参ります。
- ⑯「子どもは、先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている」が約5%下がりました。児童アンケートでは、プラスの評価となったことから、学校内でのあいさつはできているものの、地域でのあいさつが不十分であることが推察されます。まずは、交通当番の保護者の皆様へあいさつができるよう、取り組んで参ります。保護者の皆様も交通当番の際には、温かいお声かけをよろしくお願いいたします。
- ⑲「子どもは、楽しんで学校に行っている」は約87%の肯定的回答が得られたものの、昨年度比では約3%の下降となりました。児童が楽しく充実した学校生活を送ることができるよう、生活規律、学習規律をさらに整えるとともに、児童の自尊感情を高め、自分も人も大切にす態度を一層育てていく必要があると考えています。
- ㉑「子どもと防災のことについて、家で話し合っている」の肯定的回答の割合が低くなっています。学校での防災学習をご家庭に広げていくような取組が必要であると考えています。ご家庭でももしもの際の避難場所等について、お話し合いいただけますようお願いいたします。

II 学校関係者評価での意見

- 交通立哨している際、自分から元気にあいさつできる児童がいる一方で、なかなかあいさつできない児童もいる。中には、声には出せなくても、目を合わせて微笑んだり、頭を軽く下げてくれたりする児童もいる。言葉が出なくても、態度で表せるだけで違う。引き続き、様々な場面であいさつの大切さを指導してほしい。
- 地域行事の参加減少については、コロナ禍で行事自体もできていない。町内会などの地域のつながりが希薄になっている。行政にも改善に向けての具体策を望みたい。
- 防災について話し合っていない家庭が多いことに驚いた。学校での防災教育を家庭に広げていくことが必要である。地域自主防災会は小中の避難訓練にも参加し、もしもの時に備えるようにしている。子どもたちが自主防災会メンバーの顔を知ることだけでも意味がある。
- スマホやゲームについて、機器は扱えるようにならないといけませんが、怖い部分がある。残酷なゲームが多いことや、事件や事故に巻き込まれないよう、児童への指導や保護者への啓発が必要だ。
- コロナが5類になるが、コロナ自体は変わらない。三世代交流の行事など、地域の高齢者の参加についても慎重に考えなくてはならない。また、マスク着用が個人判断となるが、そのことで、感染症が広がったときに犯人捜しにならないか心配である。